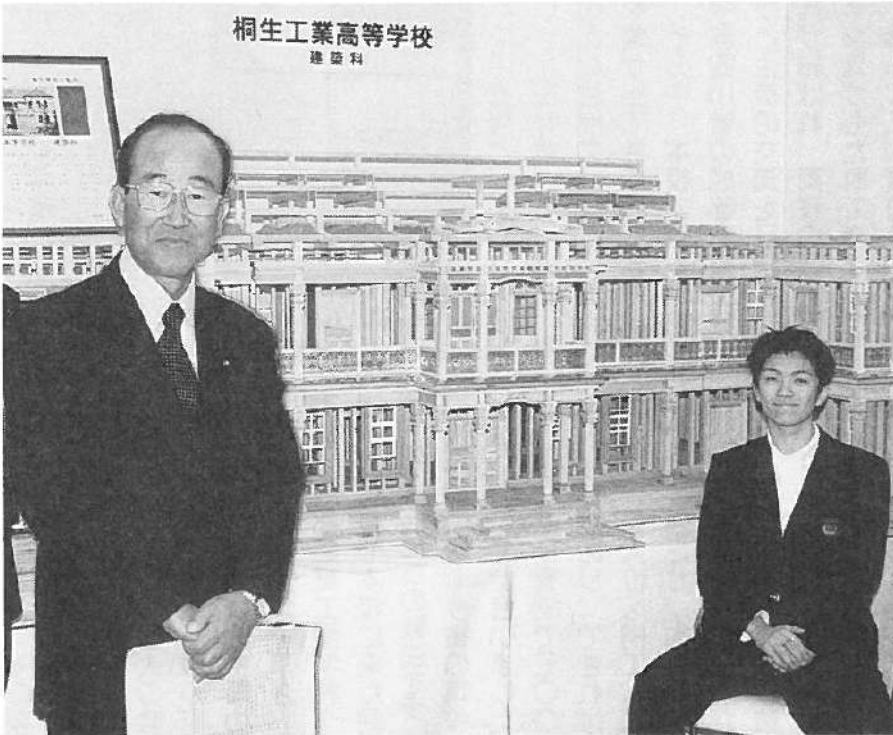


桐 蓄

編集発行 第11号
 群馬県立桐生工業高等学校
 同窓会事務局 編集部
 群馬県桐生市西久方町1-1-41
 TEL 0277 (22) 7141
 印刷 湯浅印刷株式会社



産業教育フェアに 桐生工高作品展示

産フェアにて桐工展示作品、桐生明治館の模型を前に撮影(左、五十嵐会長)

同窓会長 五十嵐健雄

新年お拜出とうございませう。世間を騒がせたコンピュータの二千年問題も大過無く越年出来、世紀末の新春を迎えることが出来ました。同窓会員諸兄には益々ご健勝にての希望に満ちた新年と拝察しお慶び申し上げます。桐蓄、十一号の発行に当たり一言ご挨拶を申し上げます。同窓会は会員諸兄の交流、交歓が何よりも優先致します。その一つの手段に桐蓄がございます。その桐蓄の発行が遅れた事を深くお詫び致します。桐蓄は毎年十一月十八日の発行と定めて今日迄参りました。しかし昨年は同月に三年に一回の学校内を開放しての工誦祭が行われ、又、月を同じくして第六回群馬県産業教育フェアが桐生市市民文化会館に於いて本校が幹事学校となり盛大に開催されました。多くの諸兄の参観を感謝致しますと共に遅延にご理解を賜われれば幸甚に存し上げます。本同窓会は支部の設立と活動の充実化を目指して鋭意努力して参りました。去る十一月

月に本同窓会二十五番目の地域支部が誕生致しました。地域の皆さんのご尽力に感謝し心より祝福申し上げます。十一月二十六日には全国支部長会議が開催され、その席で活発な活動状況がご案内されました。多くの方々の地域での交流が益々盛んであり誠に喜ばしい次第です。

去る六月十九日の定時総会では百五十数名の参集にて盛大に開催出来、特に松下埼玉県支部長の記念講演では、多くの方々に感銘を与えました。恒例になっているゴルフコンペは第八回を数え八月十九日に学校長を交えて百九十名の参加で桐生カントリークラブで盛大に行われ、先輩後輩入り乱れての喜々とした交歓は他では味合う事の出来無い楽しい一日でした。

同窓会の運営に当たり過分なご尽力を戴いている学校長並に事務局を預かる先生方と先輩諸氏の変らぬご援助に感謝し厚く御礼申し上げます。同窓会員諸兄の今後益々のご健勝の内での活躍と更なる交流交歓が促進されます様に祈念しご挨拶と致します。

力して参りました。去る十一月

桐 蓄 十 一 号
発 行 に あ た っ て

国 際 化 時 代 と

本 校 の 中 国 交 流 に つ い て

校 長 尾 池 康 雄

同窓会会員の皆様には益々
ご清祥にて新年をお迎えのこ
ととお喜び申し上げます。二
十世紀も残すところ一年足ら
ずとなりましたが、今年もよ
ろしくお願い申し上げます。
また日頃より母校への惜しみ
ないご支援に対し、心より感
謝を申し上げます。

平成十一年度の本校での特
筆すべきことは、体操部が常
勝高工を破り県高校総体で団
体初優勝したこと、また陸上
部が厳しい状況の中でも関東
高校駅伝へ三十九回目の出場
を果し、駅伝桐工の伝統を守
ったこと、それに体育館が大
きく改装されたことです。
さて本題ですが、今日の社
会状況は金融システムの安定
化やグローバルスタンダード
とグローバル化に伴う規制緩
和や産業構造の再構築等、そ



二人の先生と看板が出迎える(中国にて)

れに田高などが加わり大変厳
しい状況が続いています。そ
のため生徒の進路にも大きく
影響が出てきております。
その中、本校では4年前に
中国四川省の成都紡織工業学
校と生徒の交流を目指して提
携が結ばれ、両校の教師によ
る交流がもたれてきました。
私も、この夏自分の目で確
かめてみようとして、以前行っ
たことのある船橋教諭に同行し
てもらい8/6夜北京空港へ、
翌日は万里の長城へ行き、霧
で何も見えなかったものの足
の裏でその偉大な建造物を確
認しました。映画ラストエン
ペラーの舞台となった故宮博
物院から天安門広場まで歩き、
そのスケールの大きさに驚き
ました。8/8三国史で知ら

れる成都へ向かい、その夜は
四川大学の国際交流会館に泊
めて頂きました。校内は四万
人の学生と七〇〇〇人の教授
とその家族が暮す一つの街で
ありました。朝食は各国の学
生もいる学生食堂で頂き、そ
の後、成都紡織工業学校を訪
問、賀校長や本校に来た副校
長の周さんたちの歓迎を受け、
鄭さんの通訳で今後の両校の
交流について話合いました。
この学校は全寮制で三〇〇〇
名の生徒がおり、できればこ
の内の一〇人位を桐工へ送り
一年は勉強させ、本校で学ん
だと言う単位修得の証明が欲
しい、又、中国は開放政策に
より各省教育には大変な力の
入れようで、英語はもちろん
日本語講座も計画していると
のこと、内陸部はやや遅れ
気味とは言え大変な意気込み
を感じました。本校から行く
生徒達には、その辺をみてき
て欲しいものです。
国際化時代に世界の中で本
校卒業生が伸び伸びと活躍で
きるよう、頑張ってください
と願っています。どうか会長
さんはじめ同窓生の皆様の暖
かいご支援をお願いします。

開 校 記 念 講 演

昭和二十三年色染科卒業
埼玉県支部長

講 師 松 下 倅 也 氏

演 題 「二十五年間 海外で
生活をしてみて」

本年度も右に記した卒業生
を講師としてお招きし記念講
演会を五月一日に開きました。

セレモニーでは恒例となり
ました管弦楽部の演奏で校歌
が斉唱され、それに続き講演
が始まりました。

卒業後、(株)信越化学工業に
入社した先生は二十五年間を
海外で勤務、活躍し、その生
活体験談を中心に話をしてく
さいました。

内容は在学中の勤労動員で
化学工場に勤めたことが契機



で、その関連の職に就いた経
緯を始め、就職後は学校で学
んだ基礎知識が役立つこと、
突飛な発想や物事を筋道立て
て考える力が、必要であった
事を経験を例に挙げ話されま
した。特に、海外での仕事は
環境、文化や歴史が日本とは
異なり、その国での順応性が
求められると話されました。
実際にポルトガル、ニカラグ
ア、米国テキサスと転々とし、
化学プラントを幾つも手掛け
た先生の言葉には重みがあり
ました。
講演の最後に世界で活躍さ
れた先生から、グローバル社
会で生き抜けるプロに成って
ほしいと生徒にエールが送ら
れ講演は終了しました。

平成十一年度

総会開催

二十五支部 百三十一名参加

平成十一年六月十九日、桐生の街が一望できる桐生市市民文化会館四階、スカイホールにて百三十一名の会員が参加し盛大に総会が開催されました。以下その模様を一部・総会議事、二部・記念講演、三部・懇親会に分けて報告します。

一部 総会議事

村田副会長の開会の辞で始まり、五十嵐会長並びに尾池校長より挨拶をいただき、五十嵐会長を議長に議事が進行されました。

議事は平成十年度事業報告、会計報告・監査報告が承認されたのをはじめ、支部活動状況報告もされました。関西支

桐生工業高 総会



部は五回、静岡支部は二回、群馬中央支部は四回、埼玉支部は七回目の総会が開かれ、各支部とも懐かしの交流もたれていると報告がありました。議事はさらに進み、平成十二年度事業計画、予算案が提案され満場一致で承認されました。その他、三十一年機械科卒業、岩崎高士氏に黄綬褒章の受賞記念として銀杯と表彰状が手渡されました。また、桐雷十一号の内容、ゴルフ大会の日程、そして、平成



十二年度会員名簿出版発行のお知らせがありました。以上の議事が報告・承認され、一部総会は幕を閉じました。

二部 総会記念講演

講師、埼玉支部長、松下徹也氏より「中米ニカラグアでの生活及び革命体験」と題するお話をいただきました。

卒業後、活躍なされた場、中米の歴史や文化の話を変え、自らの生活体験談を世界地図を使い解説し、耳だけでなく目でも楽しませていただいた講演でした。

革命の時期を過ごし、いつ命を落とすか不安な日々の中にも、南国特有の美しさや歴史の深さを楽しむ生活の様子

が想像できるお話でした。



(右) 地図解説する松下氏

乾杯・大川栄二氏



懇談模様 1



三部 懇親会

大川氏による乾杯で全国からお集まりいただきました会員の方々、先輩を超えた新旧、睦まじい懇談が賑やかに行われました。写真でその模様をお伝えします。

懇談模様 2



一のメ 徳永達郎 第一支部長



二のメ 小林 清 第二支部長



会場全員、輪になって校歌を熱唱



三のメ 周東正治 第三支部長



小林幸雄 第四・五支部長の音頭で万歳三唱でお開き



支部だより

中部支部

支部幹事

35W 長沢住夫

結成三年中部支部も何とか軌道に乗ってきました。

今年五月十五日(土)十六日(日)と三重県の湯ノ山温泉で懇親会が、32W蛭岡様の進行により、五十嵐同窓会長、中里事務局長、尾池校長、静岡支部野竹様、来賓四名の方々にも参加して戴き盛大に行なわれました。

湯ノ山温泉と言いますと、赤城山と梨木温泉みたいな所です。標高三千mの御在所岳の裾にあり、ロープウェイで山頂まで登れます。

十五日にみえた尾池校長は日本カモシカと遊び、景色を楽しむつもりでいらしたようですが、あいにくの雨で実現できませんでした。会員の方が夜露天風呂に入っていると雷雨に見舞われ、ビックリし



たり、昔の思い出と現況を八ダ力で語り合い、改めてじっくりと我々は「桐生」なんだなーと思いました。これからも同窓会の発展を祈りつつ結びと致します。

中部支部は六県にまたがる広大な支部故、基幹都市は名古屋ですが、偏る事の無いよう、例年の総会を各県の景勝地持ち回り開催とし、今年(は)三重県大会となりました。昨年は大塚幹事のお骨折りで、石川県小松市で行ないました。

来年は岐阜県の皆様の活躍に期待して、下呂温泉での開催が決まっています。

「故郷は遠きにありて思うもの」……各県の温泉につかって鋭気を養い、新たな決意でまた頑張ります。

関西支部

事務局 宮根賢毅

催しにお孫さんと参加、商店街の生き残りに

かける「男の挑戦」

今年の「研鑽と親睦懇親会」は、京都市立美術館での名画フェルメールの「手紙を書く女」をはじめとする美術鑑賞のあとのハイキング形式と、デイズニー映画などの試写会をそれぞれ二回実施していますが、お孫さんと一緒に参加されるほほえましい光景も見られるようになって来ました。

地域に根ざした活動

京都のほぼ中心部壬生地域は、江戸末期新撰組の屯所があったところ。京友禅の板場友禅(型染め)の中心的産地で職人の町として栄えた下町。最寄り品(食料品・日曜雑貨、子供服、実用軽衣料等)を扱う地域密着型の近隣型商店街

が44D原田完氏が活躍している西新道錦会商店街。振興組合理事事務局長として「商店街の生き残りをかけて挑戦」しているチョットした有名な人物なのです。立派なアーケードもなければ、カラー舗装やオシャレな街灯もない下町の商店街なのに活気に満ちたハイトク商店街は、アイデア事務局長の40種類の企画がユニーク、まずは「エプロンカード」、一万円の入金で一万四百円の買物ができるうえ、買上げ額に対し二%のサービスポイントがつく。又「ファックスネット」、買い物に來られない人には事務局員が品物を揃えて届ける仕組み等々。「まいどおおきに」



埼玉支部

支部長 23D 松下俣也

支部役員、一部改選される

平成十一年三月十五日大宮市において、五十嵐会長、尾池校長、中里事務局長のご来席を頂き、第七回埼玉支部総会を開催致しました。今回の総会では、平成五年当支部設立以来、支部のためにご尽力を頂いた米山稔氏が支部顧問に勇退され、代わって松下が新支部長に、又会計担当副支部長小沢貞夫氏に代わって石関稔氏(31W)がそれぞれ選出されました。他の役員の方々は留任され、引き続き支部の運営及び発展にご協力頂く事になりました。

今回は東京都在住同窓生笠原進(24W)、大須賀稔(30M)両氏に特別参加して頂き懇親の輪をさらに深める事ができました。特に大須賀氏には「駅の絵と私」と題して特別講演をして頂き、国鉄JR勤務体験を聞かせて頂きました。入社試験合格の苦心談、入社後の英語の猛勉強、国際課で通訳としての活躍、さら

学校だより



大人気のファッションショー

第6回群馬県教育委員会主催による産フェアが、我が校の地元、桐生で開催されました。工・商・農はもとより5年前に設置された家庭科によるファッションショーなど、現在の高校教育のさまを発表展示されました。

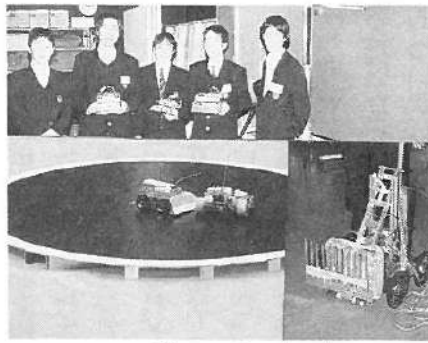
工業の中では、ロボット大会がメインで、本校からも自走ロボット相撲とアイディアロボットに参加しております。

このロボット大会は、全国大会まで開催されており、全国大会に参加すべく、生徒と

この他にも、土木科・建築科等の研究発表や、橋やダム建築物の模型や設計製図の展示と、各校の自満の作品が数多く出品されておりました。

盲・聾などの養護学校からの参加もあり、とくに、盲学校の生徒によるマッサージュの実演や、聾学校の生徒による髪のカット実演には、会場におとずれた方々が、たくさん実演の希望をされておりました。

同窓会長の五十嵐さんもヒー



ロボット大会

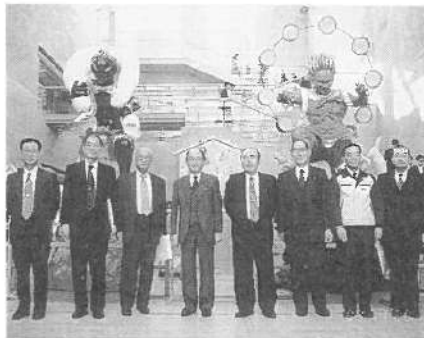


1ℓ → 426 km

参加工業高校の校長のみなさんの記念写真も風雷神の前にてカシャ!!

右下の写真はE科の鐘のなる木とS科の作品展示です。

とくに、E科の鐘のなる木の音色が、常に会場になりわ



正面を飾る風雷神



格安の農産物販売

教員が、一年、あるいは二年の月日をかけて作り続けている作品はもとより、出展した会場内を、丹念に見学されておりました。

本校のエリアで目を引いたのが、エコノミーカーの展示でありました。受好会として発足しましたが、機械科の生徒を中心に、毎年技術力を向上させており、新作のエコカ

コつと会場に現れ、本校生徒の作品はもとより、記録した426kmを記録したそうです。目標は1,000kmにあるとか。

また、本会場である桐生市民文化会館の正面には、3年前に本校が製作した風神・雷神が展示され、入場者の2拍手に、ゴッー、ガーガーと心えておりました。

特集 1 群馬県産業教育フェア 地元桐生で開催

染織デザイン科



電気科：鐘のなる木

たっておりました。

地場産会場では、県内の農業科設置校による、農産物の格安の販売が催され、おとずれる、人達の足止をしておりました。

来年度は、新築された、県庁内を会場に催されるようですが、今年、桐生で開催できた事を、関係者は、みな喜んでいました。

特集2 工謳祭開催

「秋の陣ふれあいを求めて」

祭で打ち上げた
花火のように一
瞬の輝きを放ち
閉会しました。

秋晴れの中、平成十一年十一月六日(土)〜七日(日)の二日間にかけて、三年に一度行われる工謳祭(文化祭)が開催され、合計入場者数が千八百九十八名と大賑わいを見せました。自慢の一品を展示したミニ博物館、文化部による写真等の作品展示、焼き鳥等の模擬店を始め、夏休みから作業に取りかかり、本格的なプラネタリウムを製作した電気科等の各科が特色をアピールした展示ルーム、プロ顔負けの美味しさでモツ煮やラーメン等を販売し、来場者に好評だった食堂と様々な趣向を凝らした企画がありました。この他、和太鼓やバンド演奏、また、父兄の方が開いたバザーセール、中庭を利用した茶屋等の催し物が至る所で開かれました。「秋の陣ふれあいを求めて」と題したフェアテーマの通り各所で人や作品との触れ合いが見られました。この様に、盛り上がりを見せた工謳祭は終了



生徒、職員の投票により選ばれたポスター。染織デザイン科生徒の作品。明るく、愛嬌のあるキャラクターの表情が桐生生をイメージさせる。ポスター

開会式

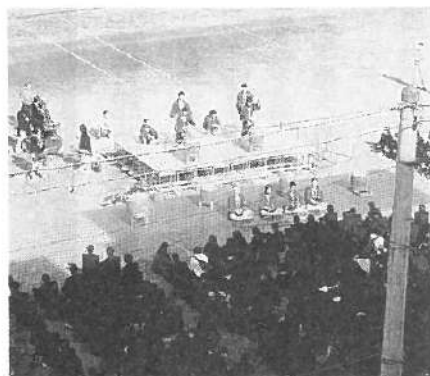
開会式に尾池校長の歌声が披露される。管弦学部の演奏で「ドラえもん」の歌を唱う。和やかで楽しい工謳祭の始まりにふさわしい曲。



会場入り口には窓ガラスにカラーフルに描かれた工謳祭の文字とともに竜が出迎える。この竜に導かれ、入場者は各催し物会場へと案内される。竜のお出迎え

和太鼓

開会式で校長の歌とともに工謳祭の雰囲気を感じあげた、土木科生徒による和太鼓の演奏風景。リズムカルによく叩かれ、心地よい音が響く。



模擬店は休む暇なく人が集まる。また、美味しそうな焼き鳥とホットドックの臭いが辺りを漂う。シユース類も販売。値段も安く、味も美味しい。模擬店

壁画

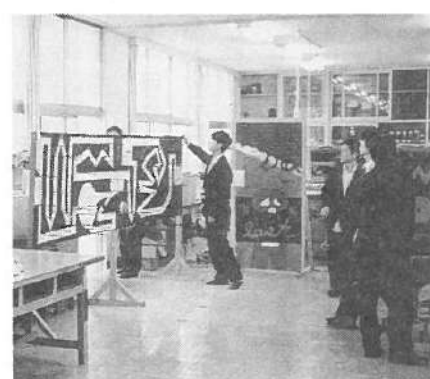
各棟をつなぐ渡り廊下には色とりどりの迫力のあるデザイン画が並び、目を楽ませさせてくれる。長さ、30メートルの壁画の出現。



ポケコン着メロ、リモコンカーの展示。他に、朱肉入れの販売、大型空気人形の製作。自動車エンジンの仕組み解説を行う。機械科

電気科

プラネタリウムの他にイライラ棒ゲーム、鐘の鳴る木の展示や、「電気」の正体を見よう。企画、原子力のパネル展示など。





土木科
測量器、トータルステーションでの実測演習や「日本の近代化遺産」パネル、総合路線測量図の展示。また、桐生の街並模型の製作。



工業技術科(定時制)
本格的なフォト個展や日頃の授業で製作したプリントTシャツ、ユニークにデザインされた陶芸、書道などの作品展示。



建築科
六校建築展図面、完成を予想した模型、木工家具の展示や地震による建築物への影響の研究、模擬日照装置で住宅の影についての研究。



染織デザイン科
染め物、織物、デザインの製作及び展示。伝統的な機械織りで織られた織物からコンピュータを使用してデザインされた物まで多くの作品が並ぶ。

事務局だより

体育館改修工事行う

昭和三十九年に落成され、四十四年の増築、六十一年の改修を経て今年度、体育館が大改修されました。

ステージの改装、体育科職員室の移動をはじめ、一階に有りました体操室が無くなり、構造を支えるその一階には耐震補強がされました。

鳩が住み、入学・卒業式、又、予餞会等、様々なイベントを演出してきました体育館は平成十二年より新たな顔になります。

平成十二年同窓会

会員名簿発行について

来年度は五年に一度、改訂されている同窓会会員名簿が発行されます。そのため、今年度は住所変更等の調査に協力いただき、各同窓会員の皆様には大変お世話になりました。

引き続き、現在も調査を行っております。その後の変更がありましたら是非ご連絡をお願いいたします。

株式会社 サラト



藪塚支部発足

桐生広域圏として近年、会員が急増している藪塚地区に支部が誕生しました。平成十一年十一月二十八日に発会式が開かれ運営が始まりました。

本部役員等変更

加入の知らせ

支部長	一八支部	星野昭治	18 W 卒
	笠懸支部	藤生吉雄	31 W 卒
	埼玉支部	松下徹也	23 D 卒
	藪塚支部	藤生高正	30 D 卒
顧問	田中健司	教頭	
	福田浩久	事務長	
会計部	須永和伸		53 M ₂ 卒
組織部	上岡淳一		62 C 卒
			以上

編集後記

平成十一年度に「桐雷」の十一号を発行するのは、ゴロ合わせですが、何か良い感じであります。

母校では昨年度から人事異動により尾池校長先生をお迎えし、桐生の良き伝統を重んじながら、国際交流や産フェア・工諷祭等にみられる通り、時代に対応した改革が進められていくようです。

人は、それぞれの環境の中で「生」を受けて様々な道を歩み、学び、何等かの縁により出会いが生まれ、それが絆となって活動している様になります。その中で高校生の青春時代は人生の中で大変意義ある大切な時を過ごしたのかなと思えます。その思い出は同窓会のエネルギーです。近年は、「心の貧困」が叫ばれ、いよいよ心を大切に、豊にする時代と言われます。我々、縁ある桐生同窓会仲間も、この絆を大切に、縦系・横系となつて交わり暖かみのある桐生織りを作り交流を深めてまいりましょう。二十一世紀と言ふ新たな時代に向けて。